



逸品

～エントランス無料企画展示～

斎宮歴史博物館所蔵の品々を特別な物語とともに深く掘り下げ一品ずつテーマを決めてお伝えします。

※ 緑の焼き物・緑釉陶器

【開催期間】

緑の焼き物～緑釉陶器とその色合い～

平成29年6月6日(火)～7月17日(月・祝)

博物館実習生による展示

平成29年9月5日(火)～10月1日(日)

斎宮前史～弥生時代～

平成29年11月14日(火)～12月17日(日)

熨斗～古代のアイロンの謎

平成29年12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

斎宮前史～古墳時代～

平成30年2月14日(水)～3月18日(日)

これ何の足？斎宮で見つけた『謎の足』

平成30年3月27日(火)～5月6日(日)

※ 各展示の詳細は裏面に記載しています。



斎宮歴史博物館

【会場】

斎宮歴史博物館

エントランスホール

【開館時間】

9時30分～17時まで

(ただし入館は16時30分まで)

【観覧料金】

無 料

(常設展・特別展等の観覧には別途観覧料が必要です)

〒515-0325

三重県多気郡明和町竹川5-0-3

TEL: 0596-52-3800(代)

FAX: 0596-52-3724

E-mail: saiku@pref.mie.jp

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/saiku/>



逸品！展示紹介

平成29年度



第1回 緑の焼き物〜^{りよくゆうとうき}緑釉陶器とその色合い〜 期間：平成29年6月6日（火）～7月17日（月・祝）

緑釉陶器は、磁器をまねて日本でつくられた焼き物ですが、高級品のため、通常の遺跡からはほとんど出土しません。しかし斎宮は、近畿以東において突出した出土量を誇り、その量は都の平安京と肩を並べます。この展示では、そうした緑釉陶器の鮮やかな緑の色合いを、産地ごとにお見せします。



重要文化財

期間：平成29年9月5日（火）～10月1日（日）

第2回 博物館実習生による展示

博物館実習生による展示を実施します。展示資料は未定ですが、実習生の元気いっぱい展示をご期待ください。

展示資料未定

第3回 斎宮前史（弥生時代）

期間：平成29年11月14日（火）～12月17日（日）

今から約2000年前に亡くなった弥生人。かつて斎宮の地には弥生時代のムラがあり、人びとは墓^{とむら}を造って仲間を弔いました。葬儀^{そうぎ}の場面で墓に供えられた土器から、今も昔も変わらない生前の仲間を偲ぶ心情を感じてはみませんか。 ※ 斎宮前史（縄文時代）は平成28年度に行いました。



館内初公開

期間：平成29年12月19日（火）～平成30年1月21日（日）

第4回 ^{のし}熨斗〜古代のアイロンの謎〜

服装を整えるために現代の生活には欠かせないアイロン。平安時代の斎宮にもアイロンがありました。それは「熨斗」と呼ばれ、現代とはかなり異なった、銅と鉄でつくられたひしゃくのような形をしていました。全国でも16点しか出土していない古代のアイロンの謎をご紹介します。



重要文化財

第5回 斎宮前史（古墳時代）

期間：平成30年2月14日（水）～3月18日（日）

斎宮跡にある塚山古墳群は、全47基で構成される5世紀後半から7世紀にかけての群集墳^{ぐんしゅうふん}です。展示品は、5世紀後半の塚山3号墳から出土した須恵器^{すえき}と呼ばれる焼き物の把手付碗と壺です。この時期の須恵器をもつ古墳は県内でもまだ少なく、斎宮成立前の当地の豪族の先進性を物語る資料といえます。



館内初公開

期間：平成30年3月27日（火）～5月6日（日） 第6回 これ何の足？ 斎宮で見つかった『謎の足』

斎宮跡の発掘調査では、獣脚^{じゅうきゃく}と呼ばれる不思議な遺物が見つかります。動物の足だけが発掘されるのです。これは何の動物の足だったのか。実はこの遺物は、足ではなく脚だったのではないかと考えられています。ものを支える脚なのです。そして獣の足の形をした脚からは、古代の国際交流の一端が見えてくるのです。



館内初公開